

December 2019

vol. 292

■ 今月のトピックス

台湾中南部地域の航空産業と観光業の発展機会

■ 日本企業から見た台湾

～能率昂科循環科技 宝誠治執行副總經理インタビュー～
台湾でのITADビジネス拡大を目指す
アンカーネットワークサービス

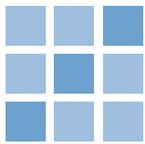
■ 台湾進出ガイド

サイエンスパークの情報

■ 台湾マクロ経済指標

■ インフォメーション

【 今月のトピックス 】



台湾中南部地域の航空産業と観光業の発展機会

台湾を訪れる外国からの旅行客数の成長が鈍化している情勢を受け、交通部は2019年末に「三本の矢」台湾観光政策を提出した。2030年に台湾への旅行客数の2,000万人到達を目標設定しており、観光事業発展を積極的に進めている。桃園空港の容量飽和や地方観光発展の必要を考慮し、民航局は台中と高雄の空港投資を強化し、観光局は中南部地域の航空路線開通やチャーター便による補完策を提供し、北部地域以外への航空路線や観光事業を呼び込むことで、中南部地域の航空や観光産業発展のきっかけとなることを目指している。

訪台観光人数の開拓目標

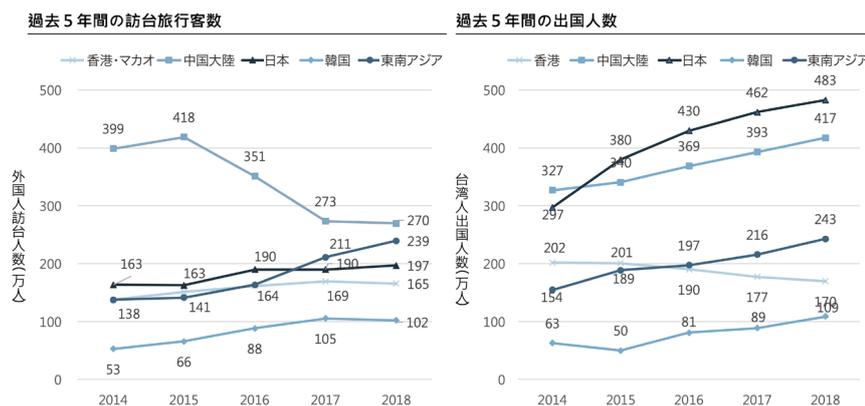
台湾を訪れる観光客数は2018年で1,100万人規模となったものの、成長スピードは緩やかである。訪台旅行客の人数は中国が最も多いが、中国人観光客数は中国政府に管理されており、台中間の政治情勢から2015年の400万人をピークに、2018年には269万人まで減少した。国・地域別にみると二番目が日本、次いで香港マカオ・韓国の順であるが直近三年での成長は約30万人にとどまる。一方東南アジアからはここ3年で80

万人増加している。合計で台湾の外国人観光客人数は微増をなんとか維持している状況である。

一方で、台湾からの出国者数は最近5年で500万人増加し、2018年で約1,664万人となった。国民の出国率は2013年の50%から、2018年には70%に達し、将来も引き続き成長していくと予想されている。

台湾は人口減少が間近に迫っており、出国率は増加し続けているものの、総人口の減少が出国者数の成長を抑える可能性がある。台湾の消費市場や経済発展を維持するためにも多くの旅行客が台湾で消費活動をするよう促すことが、台湾の発展に必要な政策の一つとなっている。

図1. 訪台旅行客および出国人数統計



交通部の林佳龍部長は10月29日に「観光の三本の矢」を提出した。観光局の観光署への昇格加速・2030年白書制定、および観光業界全国会議の開催と、2030年に訪台国際観光客人数の目標を延べ2,000万人に設定する内容である。旅行客の創造や十分な空港設備提供を如何に実現するかが、将来における台湾の交通および観光事業の重要な発展課題となっている。

今月のトピックス

全国の空港容量計画と現状課題

将来の膨大な量の旅客需要に応えるため、台湾各地の国際空港は積極的に建設を進めている。中でも桃園空港は2030年までに第三滑走路・第三旅客ターミナル・サテライトターミナルなど、総旅客数を延べ3,700万人から8,200万人以上に増やす計画である。また、中南部の空港利用者を増やすため、交通部は2年以内に台中と高雄の空港規模拡大の計画を提出予定である。高雄空港は既存の国際線ターミナル改築を予定しており、旅客数は延べ600万人から1,100万人に増加する。台中空港は3年以内に既存ターミナルの拡張が完成し、第三ターミナル建設も計画されており、旅客数は延べ170万人から400万人に増加する。同時に空港用地の範囲拡大を評価中で、新ターミナルと新滑走路の建設可能性がある。開発が完成すれば、空港はのべ600万人以上の利用が可能となる。つまり将来の台湾の国際線旅客数は2040年には延べ1億人以上となる可能性がある。

旅客拡大の計画はあるものの、空港の建設は未完成であるため、向こう10年は台湾の空港は容量不足に直面することになる。桃園空港が最も深刻であり、計画旅客数は年間3,700万人のところ実利用数は既に4,600万人に達しており、空港のサービス品質に影響が出ている。滑走路収容能力と駐機場も飽和しつつあり、短期的に他の時間帯や追加容量確保が難しい状態にある。

近年の国際線の利用は桃園空港に集中して発展してきた。過去5年間で桃園空港利用者は延べ約1,000万人増加したが、その他3箇所の国際空港の増加はわずか約150万人である。主な要因は、桃園空港が台湾最大の国際空港である他、人口が最大かつ訪台旅行者の旅行スポットである大台北地区に近いことがあげられる。台湾への出入国に桃園空港を利用する旅行者は80%に達している。

高雄空港と台中空港については、ピーク時に一部のターミナルで飽和問題はあるものの、ほとんどの時間帯でまだサービス提供が可能である。短期的には桃園空港の大量旅客サービス提供が困難なため、交通部は、旅行者の拡大は中南部の空港の活用が重要であり桃園空港の負担緩和にもなると考えている。

地方空港への投資と発展機会

北部以外の空港利用強化のため、交通部は桃園・松山行き以外の空港利用料無料化の優遇・日本韓国の地方都市旅客チャーター便の台湾就航の奨励金などの優遇策を多数うちだした。台湾の北部以外の総人口は全体の約55%であり、中南部の便が増えることで、中南部の空港を利用する可能性が高まり、桃園空港の緩和にもつながる。

外国人観光客の観点でも、これまで台北を旅行先として選択することが多かったが、旅行スタイルの多様化やリピーターが増えていることから、直接中南部や東部への観光を希望する旅行者も増えている。

空港設備と時間帯の観点でみると、混雑時間帯の桃園空港は既に飽和状態で残りは深夜か早朝の時間帯のみとなっており、旅行業の発展には不利である。他の空港は昼間の時間帯の離発着がまだ可能であり、旅行自体を比較的良質にすることができ、かえって多くの旅行者を獲得することできる可能性がある。地方観光の開拓発展のため、中南部の地方政府は現在積極的にプロモーションや環境整備に取り組んでいる。台湾観光を開拓する旅行者にとっては最良のサポートといえる。

以上の発展条件をまとめると、交通部が中南部空港活用を目指す発展ビジョンのもと、将来中南部地域では多くの建設案件やリソース投入が期待されている。航空業者・旅行業・旅館業等関連業者にとっては、今後台湾への投資機会となり得る。

図2. 国際空港旅客人数

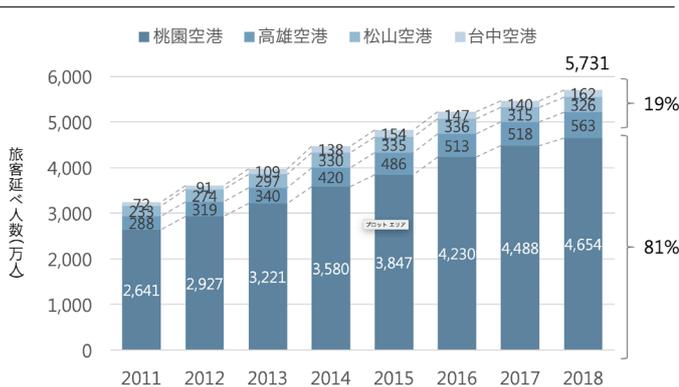


図3. 中南部空港活用



(林宛萱, w3-lin@nri.co.jp)